

## 第 2 回団体・事業者ヒアリングの開催結果について

平成 26 年 9 月 5 日（金） 13:30~15:30

ながくてエコハウス 多目的室

## 1 出席者（敬称略）

## A グループ

住民団体	伊藤 まゆみ	希望の会
	福本 喜一	要約筆記長久手
事業所	竹神 清史	特定非営利活動法人楽歩
	徳田 優太	社会福祉法人むそう

## B グループ

住民団体	山口 恭美	ほっとクラブ
	佐藤 深雪	希望の会
事業所	燈明 泰伸	社会福祉法人あいち福祉会たかぎ作業所
	小松 史枝	特定非営利活動法人楽歩
	小島 いさ子	株式会社フォルツァ

## C グループ

住民団体	加藤 登志子	ゆび話の会
事業所	竹田 晴幸	特定非営利活動法人百千鳥
	近藤 想	愛知たいようの杜ヘルパーステーション ひだまり

## コーディネーター

吉川 雅博	愛知県立大学 教育福祉学部社会福祉学科 教授
-------	------------------------

## 長久手市役所

清水 修	福祉部次長兼福祉課長
近藤 かおり	福祉部福祉課 課長補佐
宇井 正幸	福祉部福祉課 主事

## コンサルタント

秋山 東洋雄	(株)創建環境エンジニアーズ
--------	----------------

## 2 概要

今回も前回に引き続きワークショップという形式で進めさせていただきます。今回はグループごとにテーマを設定し、そのテーマに沿って課題を抽出していただきました。

障がい者の一生について考えるということで、全体のテーマを「障がい者が生まれ育った地域で暮らしていくために」と設定し、各グループのテーマを児童・成人・高齢の3つの時期に分け課題の抽出をしていただきました。

Aグループの「児童への支援方法について」の課題としては、本人への支援では、「できることを増やしてあげたい」「障がいがあってもなくても同じ経験ができる」ようにしたいが、外出方法や興味・関心を広げることの難しさなどが挙げられています。親への支援では、「誰に相談したらいいのかわからない」「福祉サービスってなんだろう」といった相談に関する課題や不安解消に関する意見がありました。「介助により余裕がなくなってしまって、他の兄弟への世話ができない」という意見もありました。その周辺要素として「環境」ということが出てきて、「日中はどうしたらいいんだろう」「交通機関がない」という課題も挙げられています。また行政支援では「市町村間で受けられるサービスに違いがある」という課題も出ています。

Bグループの「就労支援について」の課題としては、「本人の仕事を探すにはコーディネーターがいるのではないかと」「隣のおばさんでもいいのではないかと」という意見もありましたし、「学校を卒業するときにいきなり働きましょうとなっても、働くことの意味が理解できないのではないかと」「働くこと、働きたいという気持ちを小さいころから育てる仕組みを作ったらどうか」というような意見が出ています。自由に選択できる仕事の多さも必要ですが、本人の仕事への意欲が一番大事ということで、「自由意思で選択できるということも必要ではないか」という意見が挙がっています。あと、働き先の理解ということで「障がいの方への理解が乏しいが為に就職につながらない場合が多い」とので、「理解が進むような仕組みを作ったらいいのではないかと」というような課題が出てきております。

Cグループの「親なきあとの支援について」の課題としては、「親亡き後では遅い」というようなことが挙げられていました。「24時間365日のサポートがあればカバーして暮らせるのではないかと」「成年後見制度を利用することで自宅で暮らし続けられることができるのではないかと」「幼少期から近所に知ってもらって知り合いを作っていくことが大事じゃないかと」「近所づきあいをする中でつないでくれる人が必要だけれど、それは誰だろう」という課題が挙がっています。

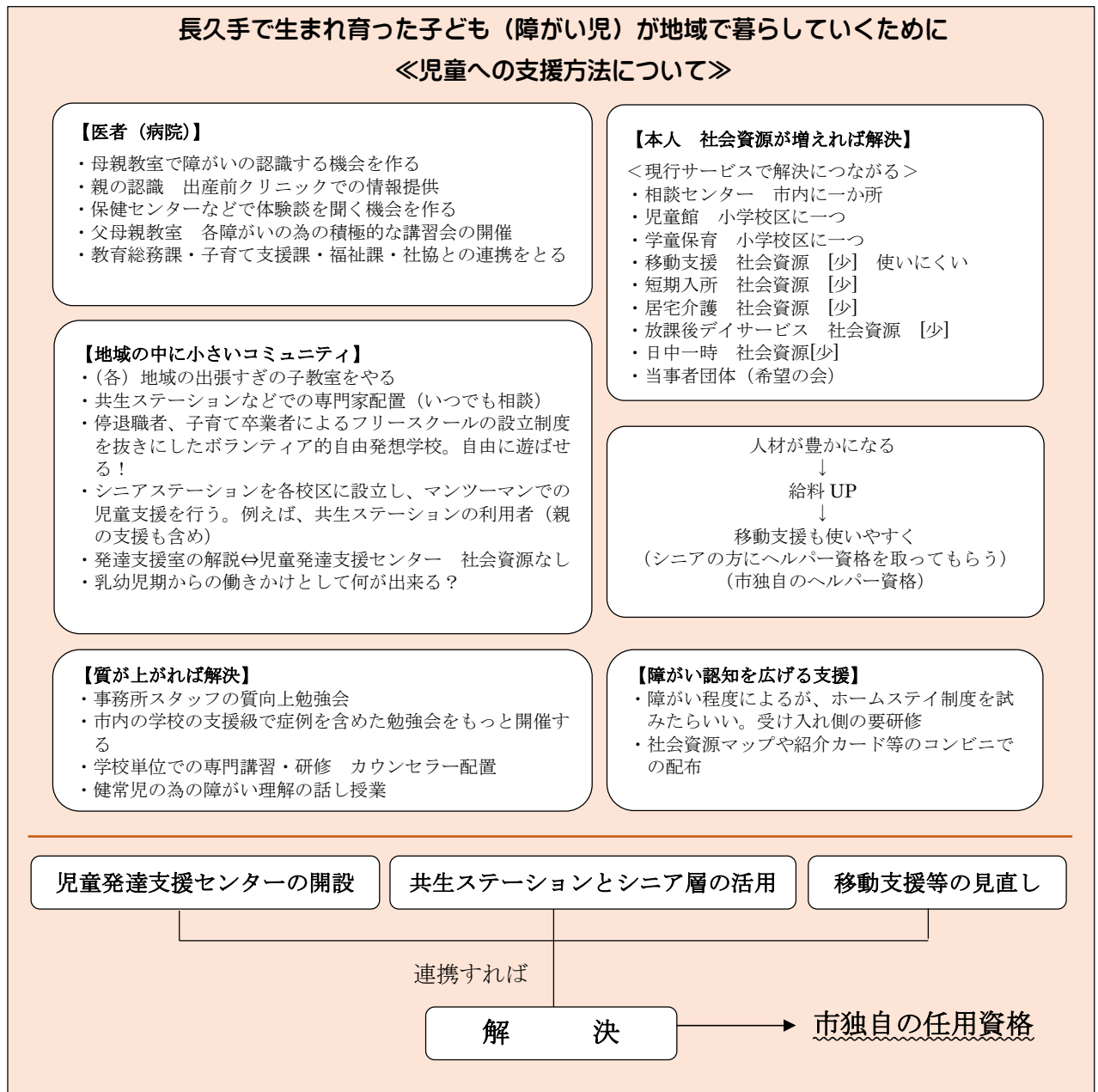
この第2回では、前回挙げた課題に対しどのような解決策があるかをグループワークで話し合っていたいただきたいと思います。今回の話し合いで出た解決策については、できる限り現在作成している障がい者基本計画の方へ掲載したいと考えており、少しでも多くの施策を実現していきたいと思っております。そこで、今回考えていただく解決策については、具体的に挙げていただき、実現可能なものを提案していただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

### 3 コーディネーター（吉川教授）

ワークショップの趣旨としては、計画策定の一環として普通のヒアリングでは陳情のようになってしまうので、しっかり具体的に考えていただいた方がいいのではないかと思います、こういう方法をとっています。先日9月3日（水）に開かれた計画策定部会で、部会員から、これはとても意義のあるものだという評価をいただきました。私としてはぜひ具体的な施策を想定して考えていただけるといいかなと思います。そして、少しでも多く計画に盛り込めたら良いかと思っています。

### 4 ワークショップ

#### 《Aグループ》



「児童」の関係について話し合いました。長久手で生まれ育った子どもたちが地域で暮らししていくために、課題を挙げて具体的な解決策、実現可能な解決策は何があるのかを洗い出しました。

前回の課題では、本人に関わることと、親に関わることと、家族に関わることと、環境、当事者の家庭や将来に関わることについて課題が挙げられました。今日はその解決のために何が必要かを考えた時に、生まれた時から、どこに相談してどんなことを聞けばいいかも分からず、どんなことをこれからしていくのかという不安がライフステージの中で出てくるので、市内に児童発達支援センターがあるといいという意見がありました。そこに、保健師さんとか子育て支援とか、保育園や幼稚園が関係してきて、生まれてきて小学校に上がる前の子ども達の支援ができるセンターがあるといいと思います。

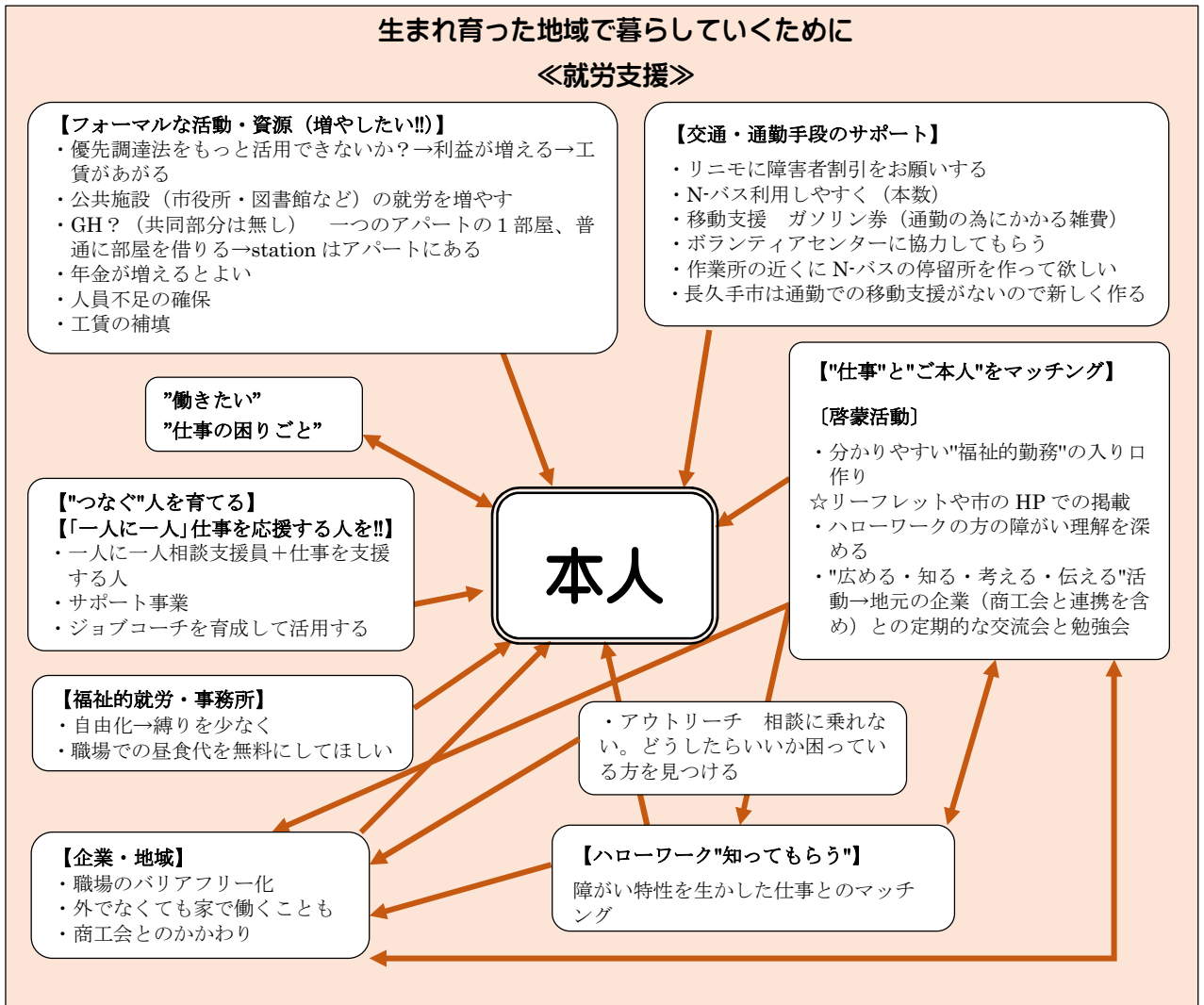
また、長久手には地域共生ステーションというのがあって、シニアの人たちもすごく活躍しているまちなので、共生ステーションに居場所をつくって、地域にもっと出てきてもらって、その方達にも、障がいのある方達の関わりにはこういうところに気をつけましょうとか、小学生達が勉強に来ている中で、人間関係を注意して、虐待につながる子供たちがいないかをみるというような研修会をした方がよいと思います。

あと、もう少し使いやすい市独自の行政、福祉サービスの施策を具体的に考えていってほしいなあと思います。具体的には移動支援を通勤・通学で使えるようにし、時間数をどうやって変えていくか。保護者も自分の時間として活用できるし、本人の成長に合わせて、小学生くらいだったらみんなで待ち合わせして、スーパーに買物に行く事もヘルパーさんが同行することによって可能性が広がっていくと思います。子育てを地域とヘルパーさんと繋がっていきなさいと思います。

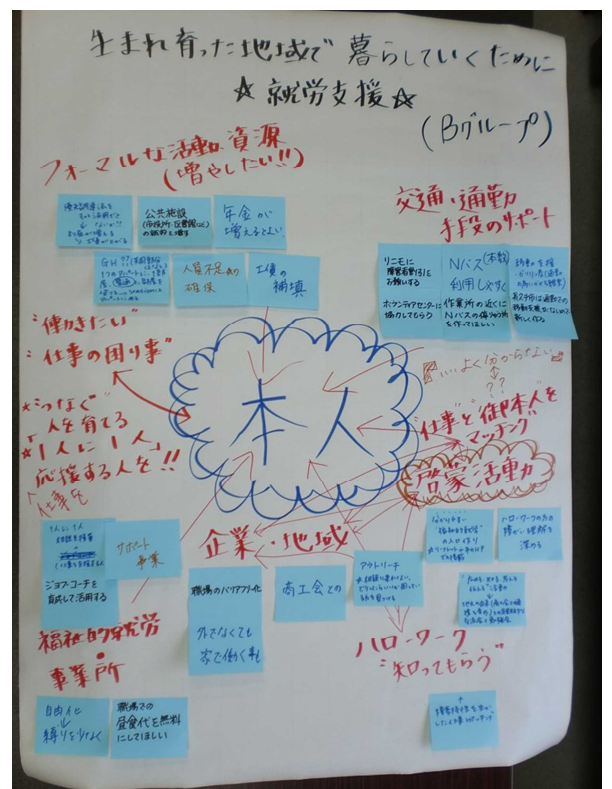
移動支援についてもホームヘルパーの資格がないとできないことは大卒なのですが、自治体によっては、2日間の講習で資格を認めているところもあります。移動支援を学生さんたちが利用し易いところにする事で、活躍しやすくなると思います。本人がヘルパーさんを出掛けている時に、保護者の方が共生ステーションに来て、新しい障がいのある家族に出会った時にアドバイスができるという仕組みになると良いなあと思います。Aグループでは、以上3つを解決策として提案します。



《Bグループ》



「就労」について話し合いました。働く意味とお金に関わってくると思います。現状では即売会など行っておりますが、やはりお金が足りません。年金と工賃とで一人暮らしできるくらい支払いたいのですが、愛知県では、平均15,000円くらいしか出せていません。年金を増やすか、工賃の補填かを考えていかなければいけないと思います。人員確保が難しく、事業所では制度があって自由に動けないため、お金を増やすことが難しいです。次に、交通の関係では、「リコモに障害者割引」「バスを利用しやすくする」「作業所の近くにバス停が欲しい」など移動手段の補填が必要です。例えば名古屋市だと無料の市バスなどがあります。お金を支払う企業対企業の話になると思いますが、働く企業の障がい者理解は、現実にはほとんどないに等しいです。特に精神疾患の方はどうやって扱ったらよいかわからないのが現実です。事業所が今後、



民間の企業とどのように関わっていくか、関わり方が大事だと思います。または、専門的な事業所と、企業の間でコーディネートするようなものがあると、企業も積極的に関わっていただけると思います。一人一人に相談支援や仕事を支援するようなものがあるとよいと思います。就労に関していうと働き口の確保が現実的に必要だということです。



## 《C グループ》

### 《『親なきあとの支援』について》

#### 【24H365日を支える仕組み】

- ・定期巡回訪問介護を（定額で24H365日ヘルパー支援）利用できるように
- ・24H365日を支えるマンパワー養成（市主催の福祉人材養成）

#### 【一般の人が参加したいと思うイベント！】

##### 【一般の人が集まる所に向かう】

- ・人が集まる所へ（コンビニ・地域の祭りとか）
- ・ふれあい訪問活動（行政・当事者・支援者のチーム）家族会
- ・福祉まつり エグザイル SKE
- ・幼・保・小・中・高・大学・企業などの講習会の開催
- ・福祉まつりに障がいのある人に参加してもらう（知っている人に声かけ）
- ・当事者とボランティアでつくる支え合い事業
- ・災害対策を通じて接点を持つ
- ・経験を作るサポート（移動支援 福祉有償運送）
- ・一般 違う興味知る 24H テレビ 101km 走る
- ・市内の企業・高校などと協力して取り組む

#### 【成年後見制度の活用・周知】

- ・分かりやすい情報提供を
- ・分かりやすく書いたもの（見やすいもの）
- ・寸劇
- ・制度をもっと活用！ 市長申し立てを増やす（5人くらい）
- ・コミュニケーション障がいの方に情報がきちんと届くように
- ・聴覚障害の方が相談しやすい仕組み

#### 【支援者のつながり】

- ・関係機関のつながりを強くする→定期的なミーティング

#### 【住まいのサポート】

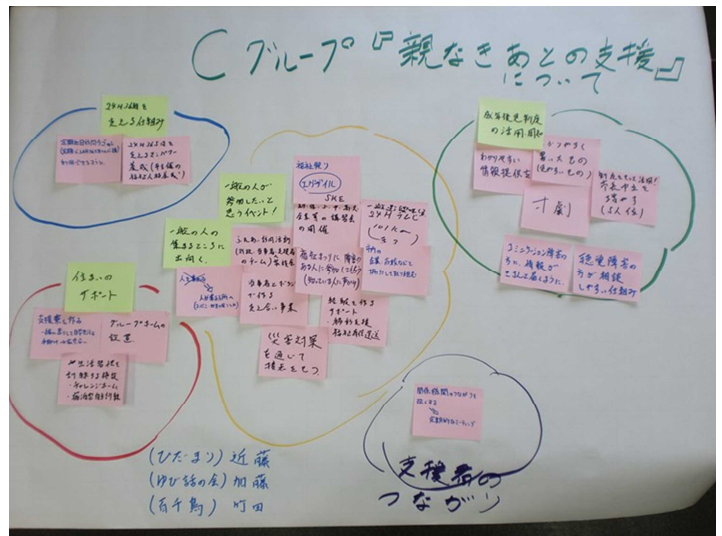
- ・支援寮を作る 一緒に暮らして日常生活を手助け→家具安い
- ・グループホームの設置
- ・生活習慣を訓練する施設 チャレンジホーム 宿泊型自立訓練

「制度」について話し合いました。いろいろカテゴリーがありますが、引きこもっている方の中には関わって欲しくない方もいると思います。いろいろな観点からみると、地域で暮らしていくためには、知っておいてもらう方がよいのではないかと思います。その繋ぎの部分をどうしていったらよいか、というのが1つのポイントです。もう一つは、（地域で暮らしていくために）24時間365日支える仕組みが必要なのではないかとことです。また、全体的に生活はできるのですが、自分でお金の管理が出来ない人などは困る事もあるので、暮らしに密着したちょっとした支援が必要ではないか、という話し合いが前回のワークショップで挙げられました。

今日話し合った結果は、まず地域の理解の促進が必要ということです。一般の人に“福祉”とか“障がい”といってもなかなか理解が出来ないものなので、一般の人が集まる所に出向くことや、一般の人が参加したいと思える様な仕掛け、ネームバリューが必要だと思います。例えば“福祉まつり”では、“福祉”とついているので、福祉に関係のある人しか集まらない。一般の人興味をもてる内容でたまたまそこに、“福祉”があったという感じの方がいいのではないかと思います。

他には、人の集まる所に積極的に行くということで、コンビニとか地区のお祭りとか人が集まる所に出向くと良いと思います。あと小学校、中学校、高校などに障がいの人が訪問して、講習会を開いたり、自分からは行けない人に、行政や支援者と当事者が合わせてチームになって出向いたりしたらいいと思います。また、当事者とボランティアによる支え合い事業など、当事者の人が主体的に何かをする活動をボランティアさんで支えていくことがよいと思います。

次に、24時間365日サポートするということは、定期巡回訪問介護というサービスを障がい者の方も使えるようにしたらどうか、ということですが、マンパワーが足りません。それと、成年後見制度が活用されていないので、制度の内容を分かりやすく情報提供（分かりやすく書いたものや寸劇など）すること、制度を活用するために、市長申し立て件数の年間目標を数字で決める（例えば1年間に5件など）等、とにかく使っていくことが必要です。また、聴覚障がいの人など情報が得られにくい人たちにも、正しく情報が伝わるように、考えていかなければいけないと思います。生活習慣を整える施設がもっといろんなところに欲しいと思います。最後に、討論会のような会を開き、関係機関の繋がりを強くしていかなければいけないという意見もありました。



## 5 講評コーディネーター（吉川教授）

今回は解決策を話し合ってくださいました。福祉の関係は、すぐ行えることはお金をかけずに市独自で行う事で、近い将来に実現できる可能性が高いと思います。今年度作成する計画に盛り込み、今回の案をぜひ長久手市で実現できるようにしたいと思います。

## 6 あいさつ（清水次長兼福祉課長）

本日はありがとうございました。

今までモヤモヤしてどうしたらいいのだろうと思っていた事が、解決の方向に進んだと思います。ヒアリングでいただいた解決策については、市で現在作成している計画にできる限り反映していきたいと思っています。先日開催した計画策定部会の中で、このヒアリングの第1回目の経過報告をした際、非常に意義のあることだと委員の方からお声をいただきました。計画作成のためのヒアリングはこの2回で一区切りとなりますが、とても有意義な時間が取れましたので、この先はどのようにするか検討中ですが、また声をかけさせていただくこともあるかと思えます。その際は、ぜひご協力をよろしくお願い致します。